

三代にわたり、 引き継ぎ受け継がれる中大DNA

親子三代表彰 今回は13組が受賞

10月28日(日)に多摩キャンパスで開催された「第21回ホームカミングデー」において、晴れの「親子三代表彰」に輝いたのは13組。クレセントホールで行われた開会式で、それぞれ表彰状と記念品が授与されました。

親子三代表彰の対象者は、①直系であること(故人、在学生は対象)、②ホームカミングデー当日に2名以上の出席が可能なこと、③過去に表彰を受けていないこと—の3基準をもとに選定されています。今回は13組が選ばれました。うち1組があいにくご欠席でした。

表彰されたご一家の思いはさまざま。でも、それぞれが中大・白門の伝統と誇り、校風に通じるもので、改めて自分たちと家族の大きなルーツの一つを確認する表彰式となりました。

席上、司会の曾根純恵さん(平12年経卒)からは、受賞者から寄せられた数々の感想が紹介されました。「しみじみとしたうれしさにつつまれ、てれくさいような、誇らしいような気持ちとなった」「中大は資格の取得に熱

心である。質実剛健の校風がとても気に入っている」「受講した講義の教授が、父親の友人だった。不思議な縁を感じている」。

その多くは、中大卒としての誇りや中大との縁、また中大127年の伝統に触れた内容でしたが、「八王子の校舎が壮大で、緑豊かな素晴らしい環境を誇りに思う」「山の手にあって毎日がハイキングのようだった」と学習・研究環境に触れたコメントもありました。

また、いくつかのご一家の感想は、お名前を紹介しつつ披露されました。

- ホームカミングデーが心に残り、娘が中大に進んだ。環境も学生も穏やかで、雰囲気がいいと思った。(安納様ご一家)
- お正月に親族が集まり、祖父と母が熱心に箱根駅伝で中大を応援するのを見

ていた。(上田様ご一家)

○三代で商学部、法学部、理工学部に進んだので、残る経済学部、文学部、総合政策学部の子孫を輩出したい。(石川様ご一家)

○ハンドボールや陸上競技などで、親子三代にわたりインターハイ出場や全日本選手権大会での優勝など、スポーツで活躍した。(北原様ご一家)

○息子が中大に合格したが、孫が勉学に励む姿を楽しみにしていた祖父が、今年5月に88歳で生涯を閉じた。この表彰を墓前に報告したい。(沼田様ご一家)
会場からは、親子三代にわたり引き継ぎ受け継がれる、力強い“中大DNA”が伝わってきました。

※ホームカミングデー全体の報告は4~5ページにも掲載しています。



開会式で親子三代表彰に臨む晴れの受賞者

親子三代表彰を受けて

親子三代表彰を受けたご一家は、どのようなことから三代続けて中大入学を決めたのか。その後の人生、ご家族にとって、中大に入ったことがどう生きたか。表彰式のあと、染谷さんと川島さんのご一家からお話を聞くことができました。

染谷さん ご一家

ビジネススクール
修了で
白門三代目に

祖父は戦前、
父は大学紛争の最中で学ぶ

今年秋、専門職大学院戦略経営研究科（ビジネススクール）を修了し「學員」となった染谷光城さん（35歳）は、お父様の染谷英夫さん（65歳）と2人で表彰に臨みました。光城さんは、他大学卒業後、勤務先である清水建設の企業派遣で中央大学のビジネススクールに平成22年（2010年）秋に入学、平日の昼は会社勤め、夜と土日に講義・勉強という「社会人学生」を経験。仕事と学業の両立に励み、修了の際には、成績最優秀者（首席）に授与される「鈴木

敏文賞」を受賞。さらに、優秀論文表彰、学位記総代と三冠王を達成しています。

お父様の英夫さんは昭和44年（1969年）に、駿河台の経済学部経済学科を卒業。大学紛争の真っただ中での激動の学生生活は、現在の学生には想像もつかないことでしょう。

英夫さんのお父様、つまり、光城さんのお祖父様である染谷善七さんも白門で、昭和14年（1939年）に経済学部を卒業しています。惜しくも、平成

14年（2002年）に他界されました（享年88歳）。

「まさか息子が社会人になってから中大に入学するとは思わなかった。中大への不思議な縁を感じます」と英夫さん。「祖父は、『三代表彰』をいただけることになるとは思っていなかったでしょう。表彰状を見せられなくて残念」と光城さん。故善七さんも、さぞや喜んでおられることでしょう。



学生時代の善七さん
(昭和14年頃)



学生時代の英夫さん
(昭和44年頃)



表彰状を手にする、英夫さん(右)と光城さん(左)

川島さん ご一家

当時、苦学生には
うってつけの
大学だった

中大の強みは、
卒業後に脈々と生きてくる

川島ご一家は、窘さん（84歳）、正博さん（54歳）、そして正樹さん（20歳）が表彰式に臨みました。窘さんと正博さんは千葉県山武郡横芝光町に住み、正博さんは両総観光の代表取締役社長として東奔西走の毎日。一方、正樹さんは公認会計士を目指し東京・目白から通う現役生です。

窘さんは、戦時経済下で家業が統合されて困窮している中、昭和20年（1945

年）に入学しました。理由は「授業料が安い」から。「確か230円で、それを3回に分けて納付した」と振り返ります。同じ理由から、弟決さん（昭和33年文卒）、妹央子さん（昭和35年文卒）にも中大進学を勧めたほか、多くの同期生、後輩を中大に誘った“中大ファン”です。現在とはともかく、“勉学に励みたいが家計が許さない”苦学生にとって、中大は「うってつけの大学だった」（窘さん）からです。

もちろん、正博さんも父の強い勧めで入学し、正樹さんは「祖父と一緒に親子三代表彰を受け喜んでもらいたい」という思いがきっかけで、千葉商業高校で文（日商二級）・武（バスケ）両立に挑戦し、指定校推薦で入学しました。

一方、正博さんが“中大卒で良かったな”と感じるのは、むしろ「卒業してから」。大学時代に勉学（経済学部）と運動（バスケ）で培った出会いや縁。それが先輩・後輩、また白門55会（支部長）や南甲倶楽部を通じて、事業経営と個人・家庭の両面で脈々と生きているからです。「中大の縁は、厚くて太い」と言います。

窘さんは駿河台で学び、正博さんは駿河台2年、多摩2年。現在の中大について、窘さんは「多摩は広くて勉強するには素晴らしいところ。でも、大学院はアクセスのいい都心に設けてほしい」と語ります。正博さんも同感です。

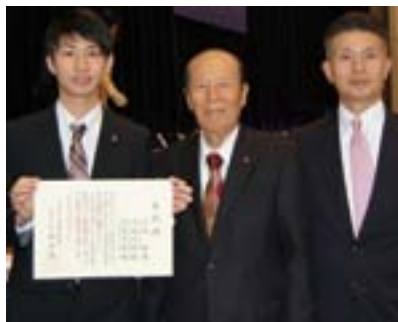
では、最初から多摩の正樹さんはどうでしょうか。「中大が公認会計士試験の合格



卒業式・駿河台校舎正門にて友人と
(昭和26年3月、左が窘さん)



バスケットボール・白籠クラブの同期と
(昭和53年10月、後列右が正博さん)



喜びの正博さん(右)、窘さん(中央)、正樹さん(左)

者数で全国トップを維持できているのは、多摩という充実した環境があるから。しかし、都心回帰の声も理解できると語り、「中大生ってやはり真面目。それが大きな良さだと感じている」と結んでくれました。

親子三代表彰者

(敬称略)

1	安納辰男（専門部法学科、昭18年卒）（故人）	安納宏和（商学部、昭52年卒）	安納晴美（経済学部、平24年卒）
2	石川仁三（商学部、昭32年卒）	石川俊之（法学部、昭62年卒）	石川亮太郎（理工学部、平22年入学）3年
3	石毛平蔵（専門部法学科、昭24年卒）（故人）	石毛広一（法学部法律学科、昭63年卒）	石毛沙英（法学部、平23年入学）2年
4	植竹秀雄（商学部、昭28年卒）	植竹伸吉（文学部史学科、昭59年卒）	植竹俊允（文学部、平24年入学）1年
5	荒瀬秋夫（法学部、昭28年卒）	上田志保子（商学部、昭57年卒）	上田竜一郎（商学部、平23年入学）2年
6	川島 睿（法学部、昭26年卒）	川島正博（経済学部、昭55年卒）	川島正樹（経済学部、平成23年入学）2年
7	北原光男（商学部、昭30年卒）	北原真之（理工学部、昭58年卒）	北原拓朗（商学部、平24年入学）1年
8	須永昭二（法学部、昭25年卒）	須永由夫（法学部、昭60年卒）	須永幸寿（経済学部、平22年入学）3年
9	梁谷善七（経済学部、昭14年卒）（故人）	梁谷英夫（経済学部、昭44年卒）	梁谷光城（専門職大学院戦略経営研究科、平24年修了）
10	沼田良男（専門部法学科、昭26年卒）（故人）	沼田正信（経済学部、昭56年卒）	沼田典久（文学部、平24年入学）1年
11	羽成孝子（文学部、昭31年卒）	羽成由紀子（文学部、昭60年卒）	羽成侑花（法学部、平23年入学）2年
12	平口 慎（法学部、昭25年卒）（故人）	平口 章（法学部、昭51年卒）	平口 誠（法学部、平14年卒）
13	松本典三郎（法学部、昭11年卒）（故人）	松本紀一（法学部、昭40年卒）	松本夏木（法学部、平9年卒）



安納宏和さん、晴美さん



石毛広一さん、沙英さん



荒瀬秋夫さん、上田志保子さん、竜一郎さん



須永昭二さん、由夫さん、幸寿さん



平口慎さん、誠さん



石川仁三さん、俊之さん、亮太郎さん



植竹秀雄さん、伸吉さん、俊允さん



北原光男さん、真之さん、拓朗さん



沼田正信さん、典久さん



松本紀一さん、夏木さん

中央の絆

学生会支部の総結集によりホームカミングデー大成功 ご協力ありがとうございました

「第21回ホームカミングデー」は、学員の皆様の絶大なるご協力のもと、大成功を収めることができました。ご協力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

東日本大震災被災地の 早期復興を支える

今回のホームカミングデーは「中央の絆：学生会支部の絆は、東日本大震災被災地の早期復興を支えます」を合言葉に、復興支援の一助として開催されました。その合言葉を、すべての来場者と確認する場として、当日14時10分から、メインステージ（セントラルプラザ）

に学生会各支部が支部ののびりを持って結集しました。その席で、被災地学員を代表し、いわき白門会・斉藤一彦氏（昭和43年法卒）が、大学と学生会の復興支援への感謝と早期復興に向けた決意を述べました。

「学員（卒業生）の祭典」であるホームカミングデーは、大学が主催し、学生会が全面的に支援して開催しています。今回も、支部主催・後援による講

演会やシンポジウム、模擬店やイベントが多数設営されました。また、学友会各サークルの現役学生による演奏、演武、パフォーマンス、公開練習や、展覧会、施設見学など、「中央大学のいま」を実感するさまざまなイベントを多くの学員が楽しみました。

「久闊を叙する」という言葉があります。多摩キャンパスでは、まさにその言葉が多く交された一日でした。

特賞抽選会・福引抽選会は 今回も大人気

特賞は50ccスクーター、40型液晶テレビ、シンガポール旅行券、10万円の旅行券……などなど、学員の多数から豪華賞品が提供されました。ご協力ありがとうございました。



中央の絆

体育会の公開練習、 学员も指導者として活躍

ホームカミングデー＝「学员（卒業生）の祭典」を大いに盛り上げてくれたのは、現役学生たち。当日は学友会各サークルが学员の指導者らとともにステージでの演奏・パフォーマンスの披露、体育会の公開練習なども催されました。

公開練習では、日頃から現役を指導している学员も参加しました。今後、学会では現役学生のスポーツ等の支援を重点施策として展開していきます。



書道会のパフォーマンス



馬術部の公開練習（馬場）



空手部の公開練習（第一体育館空手道場）



相撲部の公開練習（第一体育館相撲道場）



レスリング部の公開練習
（第一体育館レスリング道場）



メインステージでの和太鼓サークル・鼓央の熱演

※ホームカミングデー全体の報告は
4～5ページにも掲載しています。

Topics

学员体育会主催 ● ロンドンオリンピック・パラリンピック報告祝賀懇親会

選手諸君、オリンピックユニフォームで登場

9月28日（金）午後6時、中央大学駿河台記念館370号室で、100名の参加を得てロンドンオリンピック・パラリンピック報告祝賀懇親会が、学员体育会の主催により開催されました。

陸上競技部 飯塚翔太選手（法3）、水泳部 石橋千彰選手（総3）のほか、学员からはフェンシング部OB岡崎直人監督（平5卒）、同じく江村宏二コーチ（昭60卒）、千田健太選手（平21卒）らが参加。出場選手は真紅のおそろいのオリンピックユニフォームで登場しました。

また、「一つになろう（Live as one）」のテーマで、オリンピック後にロンドンで開催されたパラリンピックには、陸上競技部OBの瀬上健司さん（平7法卒）が陸上競技・投てきのコーチとして、自転車競技部OBの高橋仁さん（平10文卒）が自転車競技の監督として参加しましたが、あわせてその健闘も報告されました。

選手・指導者の健

闘をたたえるとともに、4年後のリオデジャネイロでも、白門の勇者が大いに活躍することを期待しましょう。



※関連記事は19ページにも掲載しています。

学員ネットワークの拡大・強化のために

2012 年度下期 学員会の施策について

学員会では、基本方針である「学員ネットワークの拡大・強化」を達成するために、今年度下期は、以下の事業・施策を重点的に実施していきます。学員、関係の皆様のご理解とご協力をお願いします。

学員の憩いの場「白門サロン」オープン

駿河台記念館 7 階の学員談話室は、11 月 1 日に「白門サロン」としてリニューアルオープンしました。サロンは学員と教職員に向けて、休憩や待ち合わせ、懇談の場として開放されています。

また、多摩キャンパス 1 号館から移設した駿河台キャンパス閉校時の模型が設置され、大学史編纂課などから提供された写真類も展示されています。展示物は今後、定期的に交換していく予定です。

無料のお茶・コーヒーサーバーも設置していますので、お気軽にお立ち寄りください。

開室日・開室時間：月曜日から土曜日 9 時～18 時

- ※入室の際は、原則として学員カードを持参し、利用者名簿への記載が必要です。
 ※囲碁・将棋について ①原則、駿河台記念館 7 階の和室（780 号室）をご利用ください。
 団体使用の場合に限り、715 号室の使用も可能です（要予約）。
 ②利用時間：火曜日・木曜日・金曜日 10 時～16 時



新しく設置された展示スペースと駿河台キャンパスの模型

白門支援金にご協力ください

学員会では、実り豊かな学員ネットワークの構築と学員サービスの向上のために、新たに「白門支援金」制度を創設しました。この制度は、①支部結成、既存支部（特に若手の支部）活動への支援 ②白門サロンの開設等学員サービスの推進 ③学生スポーツの振興、支援 ④学生の就職支援……に向けて用途を明確化し、学員に広く寄付を求めるものです。

寄付は 1 口 3,000 円以上とし、1 月から募集を開始します。多くの学員のご協力をお願いいたします。

※振込方法等詳細は「学員時報」1 月 25 日号でお知らせする予定です。

既卒者の学員会費納入にご協力を

学員会は学員による「学員会費」（終身会費）により運営されています。学員会費は卒業時に徴収していますが、大学の代理徴収制度がはじまる 2009 年度以前の学員の中には、学員会費（3 万円）を納めていなかったり、納入方法をご存知ない方も多数存在します。また、学員会の存在そのものを知らないという方さえ多いようです。学員会費を納めていない場合、学員として享受できるサービスに差が生じたり、大学や学員会の意思決定の場への参加に制約が生じたりします。

学員会では、学員会の存在をより多くの学員に知っていただくとともに、既卒者の学員会費の納入促進に努めています。学員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

- ※学員会費納入者には、大学や学員会の各種行事やニュースを掲載した会報「学員時報」（年 4 回）の送付するとともに、学員カードを発行します。
 ※学員会費の納入は、専用のゆうちょ銀行振替用紙をご利用ください。振替用紙は学員会本部にご請求ください。



「白門タウン誌」「白門ビジネス誌」発行

中央大学の卒業生である学員は、累計で53万人にもものぼり、全国各地、各界で活躍しています。その中には飲食サービスや旅館・ホテル、観光関係の店舗や事業を経営したり、従事している人も多数います。学会では、これらの方々に呼びかけ、全国の「白門の店」を紹介する冊子「白門タウン誌」を発行します。

また、あらゆる業種・企業等を網羅した「白門ビジネス誌」も同時に制作します。学員が経営・勤務する金融機関や各種サービス業、法律事務所や会計事務所ほか各種資格者事務所など一般消費者向けビジネスだけでなく、企業向けビジネスや製造業などあらゆる業種を紹介する予定です。「白門タウン誌」「白門ビジネス誌」は全国の学員のほか、在学生や父母会関係者にも配布しますので、企業PRや人材確保の媒体としても有効です。

学会では、このような冊子を制作・発行することで、学員ネットワークの拡充・強化を図るとともに、広告収益による白門支援金の確保を行っていきます。

「白門タウン誌」「白門ビジネス誌」の掲載記事（広告）募集の呼びかけは、右記のパンフレットで学会の各地域支部を通じて行います。ご協力、よろしくをお願いします。



中央大学の卒業生は全員、学会会の会員となります。



中央大学は卒業生を学員と呼び、学員は卒業と同時に学会会の会員になります。学会会は、「学員ネットワークの拡充・強化」を基本方針に、学員相互の交流と母校支援などの活動を行っています。また、学会会は、卒業年次、地域、職域・ゼミ・学部などの単位で、226の“支部”を組織しています（2012年11月現在）。各支部の所在、活動内容は、ホームページや学会会の会報「学員時報」でご確認ください。

※過去において、学会会費納入をもって「学会会に入会」と表現することがありましたが、今後は、会則に基づき、「卒業をもって学会会の会員」と表現することを徹底します。

学会会の活動は、会報「学員時報」をご覧ください。

次回の「学員時報」（第479号）は1月25日に発行します。

学会会各支部の活動は、学会会ホームページの会員専用ページ「時報オンライン」にも掲載しています。

<http://www2.chuo-u.ac.jp/gakuinkai/member1/index.html>

会員専用ページのパスワードとユーザーIDは学会会費納入の会員に付与しています。

学員時報送付状宛名欄をご確認ください。



白門の朋

学会年次支部協議会について

学会年次支部協議会 代表幹事
小田 眞一（白門48会会長）

学会（白門会）の年次支部は、それぞれ同窓会として個々に活動をしています。

学会年次支部協議会は、その個々の年次支部をつなげて、連携を図り、学会そのものの活性化や母校・中央大学の支援を行い、発展や隆盛に寄与することを目的としています。

今期は、「年次支部連携のネットワークを構築する」方針

を掲げスタートしました。先輩、後輩、学生との年次を越えた連携や協力が、これからの中央大学の強みになると考えているためです。

今期、各支部の方から広く意見を集約した結果、次のおり委員会を設置することとなり、若手の方に委員長を引き受けていただくことになりました。

- ①「**学員交流委員会**」 山本卓委員長（平成2年支部）、佐藤愛子副委員長（白門48年会）
……各年次支部のイベント情報を共有し、年次を越えて、積極的に交流の機会をつくる。
- ②「**IT化推進委員会**」 小川学委員長（平成元年支部）
……ホームページ未作成支部の制作支援を行い、学員同士の交流の場を提供する。
……ITの活用についての相談を無償で行う。
- ③「**学生支援委員会**」 間宮康之委員長（2007年支部）、菅野光憲副委員長（2008年支部）、芳野豊副委員長（2009年支部）
……当面学生の就職支援活動を中心に行う。
- ④「**大学支援委員会**」（当面執行部が担当）
……中央大学と連携し、“中央大学ブランド”の向上を図る。

①「学員交流委員会」は、箱根駅伝応援や花見会、ハイキング等のイベントに相互参加、共同開催することにより、気楽に年次の縦の交流を図るものです。

②「IT化推進委員会」は、小川委員長より手弁当で行う提案があり、ITに弱い世代にはありがたい活動です

③「学生支援委員会」の就職支援は、間宮委員長が学生のときから始めたとのこと、“学生の気持ちがわかる企画”となっており、こちらにも思わず力が入ります。

年次をつなげるという意味で非常に重要な「学員交流委員会」は、昭和20年代卒業の学員から直近卒業の学員までの、約60年にわたる学員の大交流を図ることを目的としています。

交流の第一歩として、白門45会の提案により、10月28日のホームカミングデーでさっそく年次支部協議会が出店することになり、運営要員を募集しました。すると、昭和

年次から平成年次まで広く協力の申し入れがあり、早くも年次を越えた交流が始まりました。

今後の行事としては、箱根駅伝の応援を主題に交流を活発化していく予定です。

来年度からは、適時交流可能なイベント情報を公開していく予定で、学員や大学の関係者は家族を含め、誰でも参加が可能です。ぜひ参加いただきたくお願い申し上げます。



10月28日のホームカミングデーに出店した年次支部協議会のテント

住所・勤務先・氏名の変更手続きについて

変更手続きは、学員ネットワーク課までご連絡をお願いします。

電話：03-3219-6172

Web：中央大学 Web サイト www.chuo-u.ac.jp

▶ 卒業生の方へ ▶ 〈左メニュー〉ご住所をお知らせください